

---

**生物多様性の主流化・行動変容に関する  
取り組みの現状と今後の進め方について**

---

# 生物多様性の主流化に向けた取組

## 国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

愛知目標の達成に向けた各セクターの参加と連携による具体的な行動を推進し、生物多様性の主流化を目指すことを目的に2011年9月1日に設立



## 愛知目標での記述

目標1：遅くとも2020年までに、**生物多様性の価値**と、それを**保全し持続可能に利用**するために**可能な行動**を、**人々が認識**する。

**「広報・教育」「連携」「ビジネスからの取組の促進、国民の行動変容（例：消費行動の転換）」を目指す。**

# UNDB-Jの取組例

## MY行動宣言5つのアクション 生物多様性アクション大賞

生物多様性のためにできる身近な行動を宣言する「MY行動宣言5つのアクション」の普及と、これに即した活動を地域から掘り起して表彰



## 推薦図書 「生物多様性の本箱」 の選定

生物多様性の理解や普及啓発、環境学習にも資する図書を推薦ツールとして選定するとともに、寄贈プログラムを整備し協賛団体を募集

## 委員会が推奨する 連携事業の認定

愛知目標に貢献する取組を登録する「にじゅうまるプロジェクト」等の中から、委員会が推奨する連携事業を認定



## 意見・情報の交換

### 生物多様性全国ミーティング

全国の多様なセクターによる情報交換を実施



### 生物多様性地域フォーラム

地域のさまざまな活動の紹介、意見交換を実施



### 国際社会への情報発信

COPやリオ+20など様々な機会を活用してUNDB-Jの活動を国際社会に発信



# MY行動宣言の概要

国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J/委員長：経団連会長、事務局：環境省)が推進する生物多様性の普及啓発ツールの1つ。これまでの宣言数は約26万件。

目的：将来にわたって、生物多様性のもたらす恵みを受けていくために一人ひとりが生物多様性との関わりを身近な生活の中で実感し、行動してもらう。

内容：5つのアクションの中から自分にできそうなアクションを選んで宣言する。

## 5 アクション

Act 1 たべよう	じもと 地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。	<input type="checkbox"/>
Act 2 ふれよう	しぜん なか で どうぶつえん すいぞくかん しょくぶつえん 自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。	<input type="checkbox"/>
Act 3 つたえよう	しぜん すば きせつ うつ かん 自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。	<input type="checkbox"/>
Act 4 まもろう	い しぜん ひと ぶんか 生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加します。	<input type="checkbox"/>
Act 5 えらぼう	エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで買います。	<input type="checkbox"/>

国連生物多様性の10年日本委員会  
生物多様性を守るために、私たちにできるアクション!  
MY行動宣言

Act 1 たべよう 地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。

Act 2 ふれよう 自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。

Act 3 つたえよう 自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。

Act 4 まもろう 生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加します。

Act 5 えらぼう エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで買います。

お住まいの都道府県  
性別  男  女  
年齢  10代未満  10代  20代  30代  40代  50代  60代  70代以上

手法1：イベント等でシートで宣言 手法2：ネットで宣言 <http://undb.jp/spread-action/entry/>

# 地域循環共生圏を支える 「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト



## 生活者目線で地域循環共生圏を広げる運動

つまり、「暮らしのSDGs」=一人一人、一社一社のライフスタイルシフトが基盤

### プロジェクトの目標

#### 森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出します

森里川海が本来持つ力を再生し、恵み（清浄な空気、豊かな水、食料・資材等の恵みを供給する力や自然災害へのしなやかな対応力、再生可能エネルギー等）を引き出すことで、森里川海とその恵みが循環する社会をつくれます。

#### 一人一人、一社一社が、森里川海の恵みを支える社会をつくれます

私たちの暮らしは森里川海の恵みに支えられているだけでなく、日々の暮らし方（消費行動や休暇の過ごし方など）を変えることによって、私たちが森里川海を支えることができます。一人一人がそれを意識して暮らす、いわば人と自然、地方と都市が共生する社会への変革を図ります。

### ふるさとづくり

自分の故郷や住んでいる場所に関わらず、「ふるさと」だと感じられる地域をつくれます。



気になる地域があったら訪ねてみて、お気に入りの地域に出会ったら定期的に通ってみます。

### SDGsを実践するための暮らしのヒント

パターン × ライフスタイル  
ランゲージ × イノベーション



暮らしを変える  
SDGsチャレンジ

アンバサダー×Youtube



# 「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト ライフスタイルイノベーションを促すパターンランゲージ

## SDGsを実践するための暮らしのヒント

買い物するときの商品選びやお休みの日の過ごし方を変える、暮らしのヒントを提案。  
ハッシュタグをつけ、SNSでの拡散に取り組んでいる。

### おでかけのおとも

「日々を一緒に過ごす」という感覚でお気に入りのアイテムを持ち歩きます。例えばマイボトル、ハンカチ、エコバッグ等。



お気に入りの物で身の回りを囲むと日々の生活が楽しく豊かになります。結果、ゴミも少なくなります。

### ごみダイエット

ものを買うときに、繰り返し使えるものや、土に還りやすいもの・方法を選びます。



詰め替え可能な商品を選んだり、買い物の際にレジ袋や過剰な包装を断ることも手軽にできるやり方です。

### もののものがたり

毎日食べているもの、衣類、使っているものは、どこで、誰が、どんな風に作ったんだろう？と情報を集めてみます。



どんなものも地球の資源をいただいた、誰かの仕事の結果です。そんなことが感じられると、値段の意味も違って見えるかもしれません。

### シェアする暮らし

持っているものに飽きてしまったり、新たに必要なものが出来たとき、「もらう」「借りる」「共有する」「あげる」方法を考えます。



そうすると、ものの消費サイクルが伸びるので、ゴミを減らしたり、出費を抑えることにつながります。

### じっくりセレクション

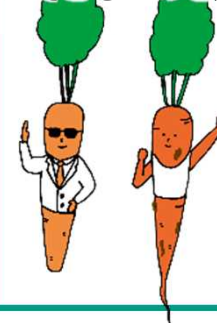
欲しいと思うものを見つけた時、衝動だけで買いたいのか、自分にとって本当に必要なものなのかを、見極めます。



3年後にも大切に使っているかどうかを想像してみるのも一つの判断基準になります。

### フードレスキュー

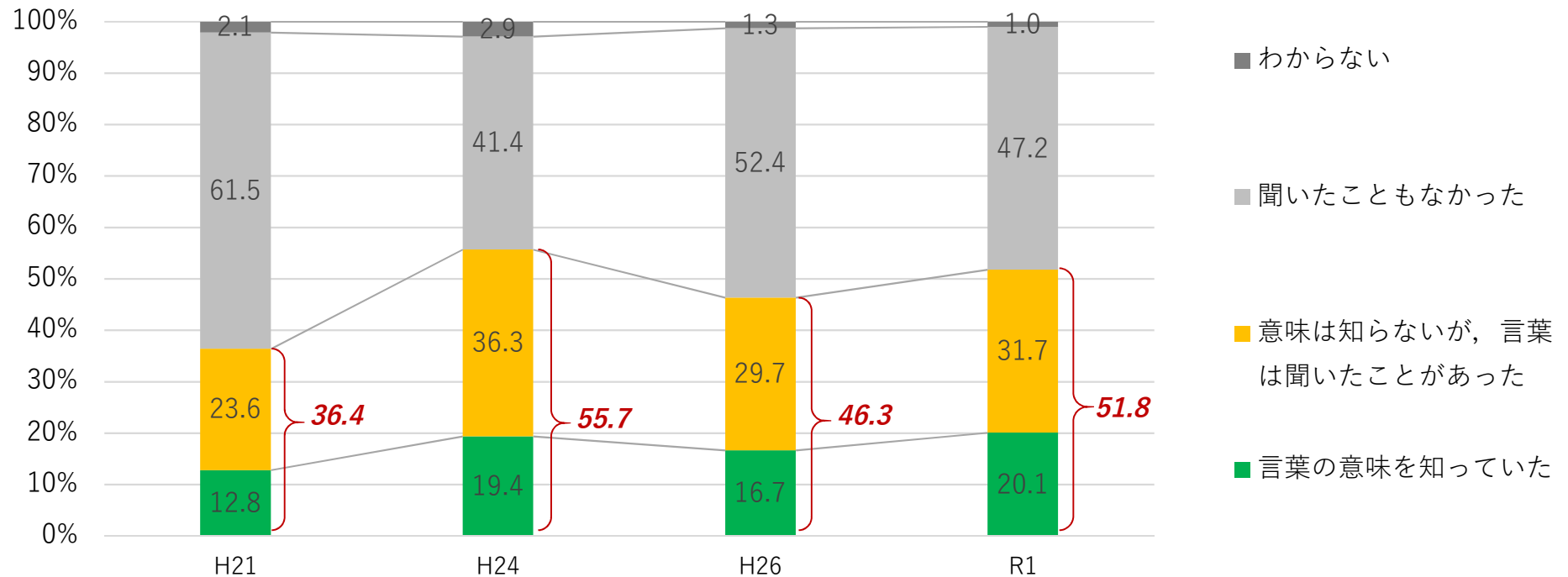
無意識に、色や形が良いもの、長く保存ができるものを選んでしまう私たち。



レスキュー隊員になった気持ちで、個性がある形をした野菜たち、期限が近い商品を選ぶと、食べものが無駄に捨てられてしまうことを防ぎます。

# 生物多様性の認知度の推移

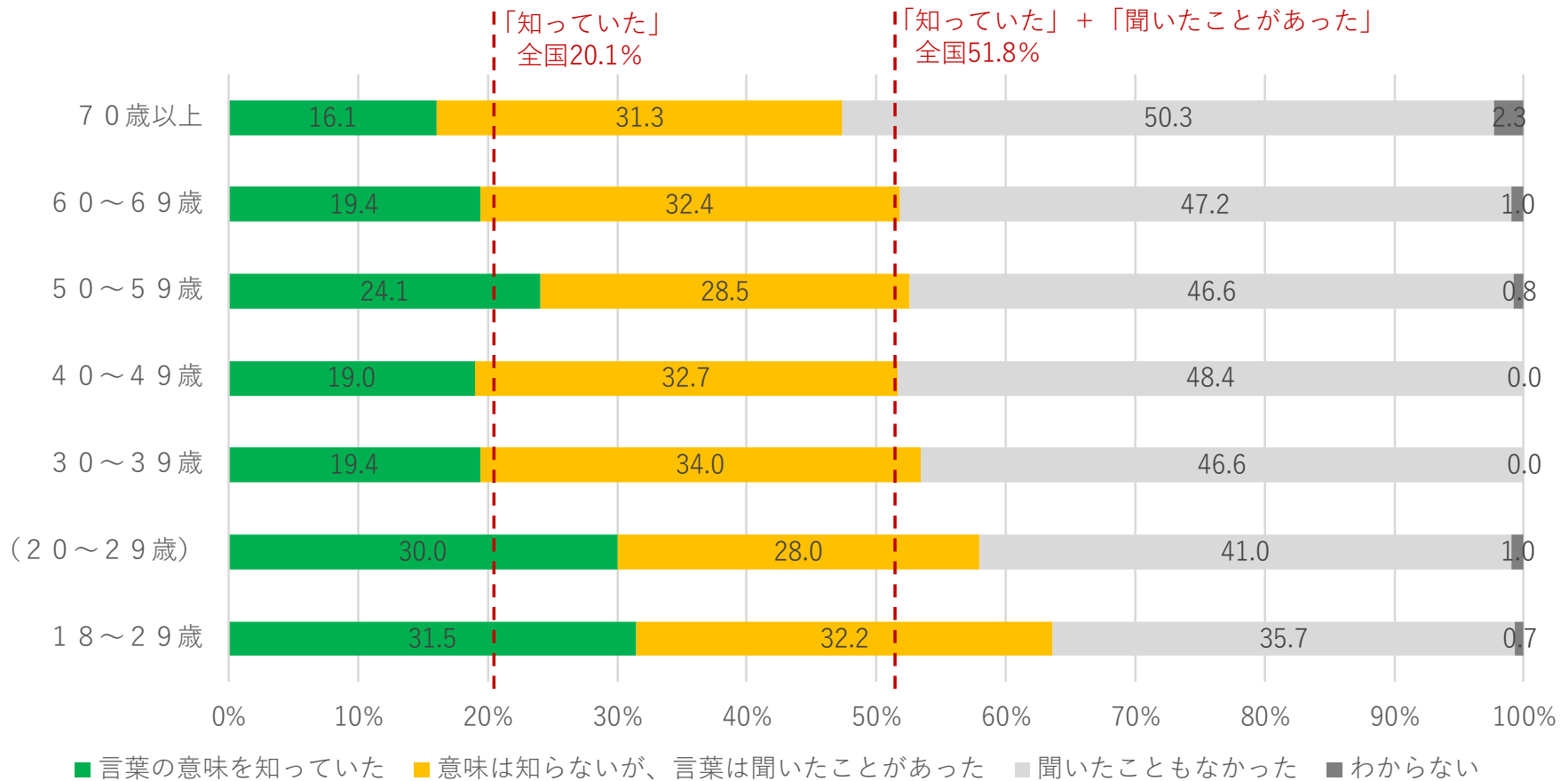
- 令和元年8～9月に実施に実施した世論調査では、「生物多様性」の認知度は、51.8%。
- 前回調査（平成26年）に比べると、認知度はやや上昇している。ただし、COP10直後のH24年の調査結果には及んでいない。



令和元年度 生物多様性に関する世論調査（生物多様性の認知度に関する設問）

# 生物多様性の認知度の推移

- 年代別に見ると、18～29歳の認知度が63.7%となるなど、若年層ほど認知度が高い傾向にある。



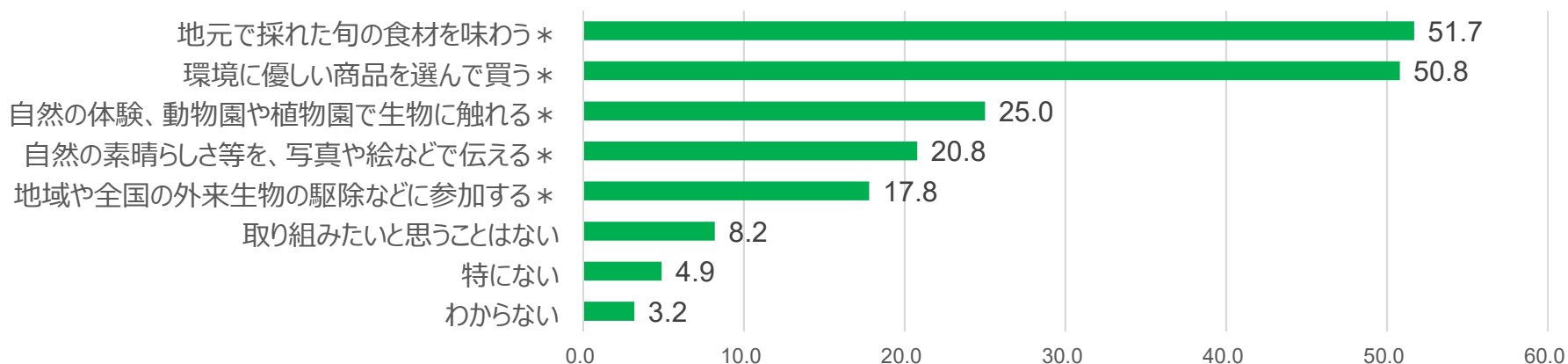
令和元年度 生物多様性に関する世論調査（生物多様性の認知度に関する設問）



# 生物多様性の認知度の推移

- 8割を超える方が生物多様性の保全につながる行動への意向を示している。
- MY行動宣言の「たべよう」「えらぼう」といった身近な消費行動に関する行動意向が高い傾向。

問 環境省では、国民が取り組める生物多様性の保全に貢献する行動を次のとおり5つにまとめ、できる行動を皆様に宣言していただくよう呼びかけています。あなたは、この5つの行動の中で既に取り組んでいる、または取り組んでみたいと思うことはありますか。この中からいくつでもお答えください。（複数回答）



令和元年度 生物多様性に関する世論調査（生物多様性の保全に寄与する行動に関する設問）

# MY行動宣言の課題等

## 【論点①】

- ・宣言内容の改善について
  - より具体的な行動を促すための内容面での工夫は可能か？

## 【論点②】

- ・宣言方法の改善について
  - 行動の内容をチェックすれば宣言可能。本当に具体的な行動に繋がっているか？
  - 宣言後は、手元にシートは残るが、存在を忘れてしまうのではないか？
  - フィードバックやフォローアップがないので、継続しないのではないか？

## 【留意点】

- ・作成した「新MY行動宣言」を普及していくのは、ポストUNDB-Jであり、限られた予算内でツールを作成・維持管理する必要がある。
- ・デジタル技術の活用も視野に入れつつ、可能な限りローコストでのフィードバック等を考える必要がある。

## 今年度の調査検討①（環境省のナッジ事業の一部として実施）

MY行動宣言における課題抽出、ナッジ効用の把握を行うため、以下の調査を実施する。

- (1) 何も実施しない人
- (2) 現在のMY行動宣言にて宣言する者
- (3) ナッジの効用を期待した新MY行動宣言(仮)にて宣言する者

の3グループに分け、一定期間前後に行動変容の程度についてアンケート調査を実施する。  
アンケートにおいては、効果や課題等について聞き取り、今後のWGにおける活動へ生かす情報を収集する。

### 【ナッジ効用の検討案】

- ・行動内容を具体的に記載する → 理解の醸成や宣言の効果が高められないか。
- ・達成した場合に、アイコンを色塗りする → 振り返る機会を創出できないか。
- ・目立つところに設置、写真撮影する → 宣言の効果が高められないか。

# 【参考】MY行動宣言試行モデル版



生物多様性を守るために、私たちにできる5つのアクション！

## MY行動宣言

私たちの暮らしは生物多様性がもたらす自然の恵みによって支えられています。生物多様性の恵みを受け続けられるように、5つのアクションから日常の中でできることを考え、記入しましょう。そして達成できたアクションには右のアイコンを塗り、いつも見られる場所に貼って行動できるようにしましょう！

### 1 たべよう

例えば▷地元の野菜を食べることで、運搬に伴う環境負荷の軽減に貢献します。

私は、



### 2 ふれよう

例えば▷休日は近くの都市公園へ出かけ、季節の花や鳥を観察します。

私は、



### 3 つたえよう

例えば▷写真を撮るのが趣味なので、インスタグラムでみんなにも共有したいです。

私は、



### 4 まもろう

例えば▷近所の清掃活動にできるだけ参加しようと思います。

私は、



### 5 えらぼう

例えば▷服を買うときは、ながく愛用できるものを選びます。

私は、



## 今年度の調査検討②（「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトの一部）

- パターンランゲージ（暮らしのヒント）をショッピングセンター等に掲示し、地域産食材や環境配慮食材購入等、**消費者の行動変容への影響調査**を行って、「暮らしのヒント」の効果検証を行う。



レールPOP

のぼり

腰幕



ポスター

スイングPOP

シール

腰幕

※イメージ

※会計を済ませた人にアンケートを実施し、掲示の対象商品の購入の有無を聞くことで、掲示の対象商品の購入割合を調べる。その割合が掲示をする日・しない日でどう変わるか調査する。  
※調査を実施する店舗や調査内容等については、今後調整予定。